

Solid FPIES の食物経口負荷試験に関する研究

1. 研究の対象

2021年1月1日から2023年12月31日までに当院小児科で食物経口負荷試験を行った食物蛋白誘発胃腸炎の方

2. 研究目的・方法

食物蛋白誘発胃腸炎は非IgE依存性消化管アレルギーの一つです。2017年に国際コンセンサスガイドラインができてから、報告例が増えていますが、国によって、頻度の多い原因食物が異なります。日本では、当初牛乳の報告例が多かったですが、最近では卵黄が最も多くなっています。食物蛋白誘発胃腸炎は、感作経路や免疫学的機序は不明な点が多く、確定診断、耐性獲得を確認できる検査法はありません。そのため、食物経口負荷試験による症状の有無で診断しています。しかし、食物経口負荷試験の方法や行うべき時期についてもまだ確立されていません。そのため、当院で行った食物経口負荷試験を調査し、より安全に適切な時期に食物経口負荷試験を行えるようになることを目的とし、学会・研究会で公表します。方法は、診療録から発症年齢、負荷食物、発症から耐性獲得確認のための食物経口負荷試験を行った期間、負荷試験を行った年齢、負荷量、検査値、症状の重症度、負荷試験での投薬の有無などの情報を収集し、関連性や特徴、傾向などに関して記述・分析を行います。研究期間は倫理委員会承認日から2026年3月31日までです。

3. 研究に用いる情報の種類

診療録から情報を収集します。負荷試験の症状誘発の有無、原因食物、発症年齢、耐性獲得確認のための食物経口負荷試験を行った年齢、負荷量、特異的IgE値、非特異的IgE値、TARC値、周産期歴、既往歴、家族歴、症状の重症度、負荷試験での投薬の有無などを収集します。ただし、後方視的研究であり、不明な点は不明といたします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知県南国市岡豊町小蓮

088-880-2355

高知大学医学部小児思春期医学講座 竹内 愛那（研究責任者）